

名寄高新聞

新人戦特集

北海道名寄高等学校新聞局

2021. 1. 18

発行責任者 岡田 菜月

支部新人バドミントン:名寄スポセン

女子
ダブルス

大山・島津ペアが優勝

女子団体は惜しくも2位

11月20日から22日まで、名寄市スポーツセンターで令和2年度高体連名寄支部新人バドミントン大会・兼第53回北海道高等学校新人バドミントン大会名寄支部予選が開催された。

女子の部には名寄高校から、横濱朱莉主将(20)、島津睦美さん(2A)、水島ひなたさん(2B)、大山愛葵さん(20)、畑山野乃さん(1A)、猪狩葵さん(1B)、中川実来さん(10)が出場。結果は、団体戦で2位、個人ダブルスで島津・大山ペアが優勝、個人シングルスでは大山さんが2位と大いに健闘をみせた。

団体戦には名寄高校、土別翔雲高校、稚内高校の3校が出場。リーグ戦で優勝を争った。

名高は初戦で土別翔雲と対戦。第1ダブルスには大山・島津ペアが臨み、正確で力強いショットで相手を圧倒し、2-0で勝利した。波に乗った名高は、続



サーブのコースを狙い構える大山愛葵さん

く第2ダブルスの横濱・中川ペア、第1シングルの猪狩さん、第2シングルの畑山さん、第3シングルの水島さんも積極的な攻撃で相手を寄せ付けず、全試合2-0で圧勝。その実力の高さを示した(5試合行ったが正式記録は3勝0敗)。

2戦目は強豪・稚内高校との対戦。第1ダブルスの大山・島津ペアは第1ゲームを10-21で落とすと、第2ゲームはシャトルを散らし、チャンスには積極的に攻めて21-17と奪い返す。勝負の第3ゲームは手に汗握る熱戦となったが、惜しくも19-21で落とし、ゲームカウント1-2で敗れた。第2ダブルスには水島・横濱ペアが登場し、エネルギーあふれるプレーで健闘したが、2-0で敗れた。続く第1シングルの畑山さんは、緩急をつけながらシャトルをコースに打ち分けて、21-17で第1ゲームを奪う。第2ゲームでも正確なショットで主導権を握り、21-16で取り対戦成績を1勝2敗とした。第2シングルスには島津さんが登場。高い技術でシャトルを打ち分け善戦するも一歩及ばず、0-2で敗戦。その結果、1勝3敗で稚内に敗れ、団体戦を2位で終了した。

個人戦のシングルスとダブルスには団体戦の3校に加えて、おといねっふ美術芸芸高校、浜頓別高校、利尻高校、礼文高



慎重にサーブを放つ島津睦美さん

校が参加。計7校の選手たちによるトーナメント戦が行われた。

ダブルスには大山・島津ペア、横濱・中川ペア、水島・畑山ペアの3ペアが出場。

大山・島津ペアはシードされ2回戦から登場し、稚内ペアと対戦。安定したショットと力強いスマッシュで相手を一蹴し、2-0のストレート勝ちを収め準決勝に進出した。

横濱・中川ペアは相手の棄権で1回戦を不戦勝。2回戦は1回戦シードの浜頓別ペアと



得点し喜ぶ横濱朱莉主将(左)と中川実来さん

(裏面へ続く)

対戦。積極的な攻撃で主導権を握り、2-0で勝利。準決勝進出を決めた。

1回戦をリードされた水島・畑山ペアは2回戦で礼文ペアと対戦。息の合ったコンビネーションで相手に反撃の隙を与えず2-0で快勝し、準決勝進出を決めた。

その結果、名高の3ペアが全てベスト4に進出する快挙を達成した。

準決勝1試合目は、大山・島津ペアと横濱・中川ペアが対戦。両ペアともに果敢な攻めをみせて試合は白熱するが、ショットの精度で上回る大山・島津ペアが徐々にペースを握り2-0で勝利。大山・島津ペアが決勝進出を



懸命に体を伸ばしシャトルを返す水島ひなたさん

決めた。準決勝2試合目で、水島・畑山ペアは稚内の佐藤・三上ペアと対戦。連携力のあるプレーで熱戦を展開したが、2-1で惜敗。決勝進出はならなかった。

3位決定戦は横濱・中川ペアと水島・畑山ペアの名高対決。試合は互いに譲らぬ攻防でファイナルゲームにもつれ込む接戦となったが、最後は水島・畑山ペアが2-1で辛勝し3位。横濱・中川ペアは4位となった。

決勝戦は大山・島津ペアと稚内の佐藤・三上ペアが対戦。激しい攻防の白熱した戦いを展開するが、大山・島津ペアがショットの正確さと攻撃力で主導権を握り、2-0で快勝。堂々の優勝を果たした。

女子シングルス 大山さんが2位

シングルスには大山さん、島津さん、水島さんが出場。3人とも1回戦をリードされ2回戦から登場した。大山さんは正確なハイクリアと高い攻撃力で、2回戦の浜頓別選手、3回戦の土別翔雲選手を圧倒し、ともに2-0で勝利。島津さんも前後左右に打ち分ける正確なショットで、2回戦の礼文選手、3回戦の浜頓別選手ともに2-0で破る。水島さんも速い動きと力強いショットで、2回戦の

稚内選手、3回戦の土別翔雲選手とともに2-0で退けた。その結果、ダブルスに続き3選手全員が準決勝進出を果たす活躍となった。

準決勝の1試合目で大山さんと島津さんが対戦。互いに正確なショットで接戦を展開するが、チャンスで積極的に攻めた大山さんが主導権を握り2-0で勝利。決勝に進出した。水島さんは準決勝の2試合目で稚内の木下さんと対戦。終始攻めの姿勢を貫いたが、惜しくも0-2で敗れた。

3位決定戦は島津さんと水島さんが対戦。ともに粘り強くシャトルを拾い、熱戦となったが、2-0で島津さんが勝利。島津さんが3位、水島さんが4位となった。

決勝戦は大山さんと稚内の木下さんが対戦。大山さんは丁寧にシャトルを散らし、チャンスには強気で攻めるが、相手にリードを許し流れを引き寄せられない。結局、2ゲームを



コースを狙いサーブを打つ横濱朱莉主将
連取され、0-2で惜しくも敗退。準優勝となった。

高体連では必ず稚内に勝つ 横濱 朱莉 主将

団体戦で稚内を倒して優勝し、全道大会へ出場することを目標にしていた。

大会前はダブルスを中心にレシーブ強化を行い、攻めきることを意識して練習した。3年生引退後、初めての団体戦がある大会だったので、全員で勝ちにいくという高い意識をもって臨んだが、目標を達成できず

悔しかった。次に稚内と団体戦を戦える高体連大会では、今回の悔しさをバネに練習に励み、必ず勝利を手にした。

1月の全道大会に向けては、様々な練習を繰り返し行っている。強い相手に、初めから気持ちで負けないよう、気持ちの面も鍛えていきたい。

自分を信じ切る力が重要 濱中 聡志 監督

メンタル面の強化を大会前に行って臨んだ。目標は団体戦優勝だった。団体戦では、メンバーが替わり、はね返しきる力もあるので実力差はない。自分たちの力を信じ切る力が重要になる。

試合では、慎重になり自分たちの力を発揮できていない点があった。不安を感じる

ぎているようにも思えたので、もっと強気に勝負してほしい。

全道大会では、団体戦ベスト8に入ることが目標。そのためにまず、確実に1勝をあげることが重要になる。全道大会に向け、フィジカル強化に重点をおき、なわとびや体幹トレーニングなどを行っている。



力強いショットを打つ畑山野乃さん